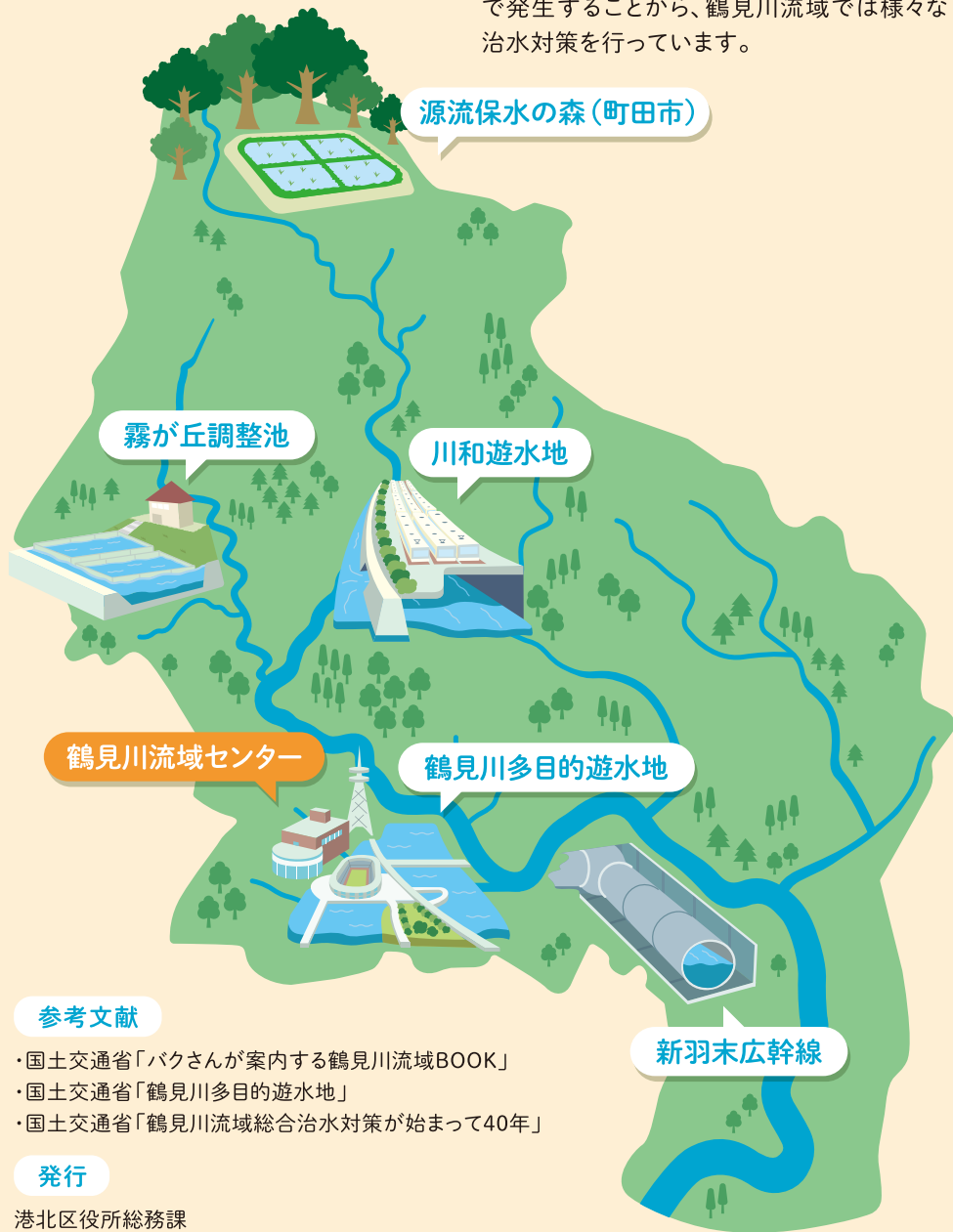


鶴見川流域図

降った雨が鶴見川に流れ込む大地の広がりを鶴見川の流域といいます。水害は流域単位で発生することから、鶴見川流域では様々な治水対策を行っています。



参考文献

- 国土交通省「バクさんが案内する鶴見川流域BOOK」
- 国土交通省「鶴見川多目的遊水地」
- 国土交通省「鶴見川流域総合治水対策が始まって40年」

発行

港北区役所総務課

掲載内容に関するお問合せ

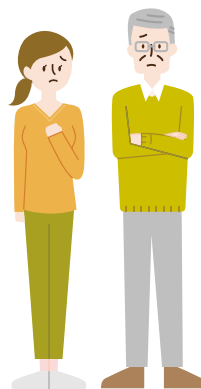
港北区役所総務課 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町26-1 TEL:045-540-2206

港北区

大雨

OOAME

いつ避難すればいいの？



時の
避難行動を
考えよう

大雨のとき、
どんな危険が
あるんだろう？



令和8年6月発行
港北区役所

はじめに

港北区を西から東に蛇行して流れる鶴見川はかつて「暴れ川」と呼ばれ、大雨によって幾度となく氾濫していました。鶴見川流域ではこうした「暴れ川」に対処するため、鶴見川多目的遊水地をはじめ、上流域における緑地保全や調整池の整備など、流域の関係者が一体となって取り組む総合治水対策が全国に先駆けて実践され、鶴見川流域に住む人、訪れる人の安全と安心を守っています。

しかし、令和元年の台風第19号は、全国各地に大きな被害をもたらしたほか、ここ港北区においても鶴見川の水位が上昇し、広範囲に発令された避難情報によって避難場所に最大1,735人が避難しました。近年、線状降水帯による大雨が発生し、数多くの甚大な災害が生じていることから改めて「大雨」に対する備えの大切さを考える機運が高まっています。大雨によって生じる災害、いわゆる水害は、気象情報や避難情報などから事前に予測することが可能であり、適切な避難行動を心がけることで自分や家族の大切な命を守ることができます。

この冊子は、港北区民の皆様が、洪水や土砂災害に備えて適切な避難行動等を実践していただくことを目的に作成しています。ハザードマップ、マイ・タイムライン等と併せてぜひご活用ください。



令和8年6月 港北区役所

©横浜市港北区ミズキー

鶴見川の水害

昭和51年台風第17号



港北区大豆戸町地先



港北区新羽町付近

写真提供：国土交通省京浜河川事務所

住家被害(鶴見川流域)



全半壊
16戸



床上浸水
1,210戸



床下浸水
2,730戸

近年の水害

令和元年台風第19号(東日本台風)による全国の被害



写真提供：国土交通省京浜河川事務所

人的被害(全国)



死者
105名

負傷者
375名

住家被害(全国)



全壊
3,229棟

半壊
28,107棟



床上浸水
7,524棟

床下浸水
21,549棟

写真提供：防衛省陸上自衛隊東部方面隊

目次

1 港北区で想定される水害を知ろう!5

2 自宅等でどんな被害が発生するリスクがあるのかハザードマップで確認しよう!6

3 避難情報・避難場所について理解しよう!

- ① 警戒レベルと避難情報等について.....7
- ② 情報収集の方法 ～避難情報や避難場所情報を入手しよう～9
- ③ 大雨時の避難場所について.....15
- ④ 避難の際の注意点19

4 マイ・タイムラインを作成しよう!20

j コラム

- ① 鶴見川流域総合治水対策について.....23
- ② 鶴見川多目的遊水地について.....24
- ③ 鶴見川流域総合治水対策の効果.....25
- ④ 港北区内での取組 まるごとまちごとハザードマップ26



1 港北区で想定される水害を知ろう!

港北区では大雨時に、洪水、内水、土砂災害による被害の発生が想定されます。

洪水



降雨により、川の水位が上昇し、堤防から水があふれたり、堤防が壊れて水があふれたりする災害です。家屋の浸水や道路の冠水による被害が想定されます。

内水



降雨により、下水道管や水路がいっぱいになってしまい、河川に排水できず、マンホールや雨水ますなどから水があふれてしまう災害です。家屋の浸水や道路の冠水による被害が想定されます。

土砂災害



降雨により、土に多くの水がしみ込み、地盤が緩むことで、崖の斜面が崩れてしまう災害です。建物の倒壊や道路の通行止めが想定されます。

2 自宅等でどんな被害が発生するリスクがあるのかハザードマップで確認しよう!

ハザードマップとは、災害が発生する可能性のある場所や避難場所などを示した地図です。次の3つのハザードマップで、大雨や台風の時に自宅などがどのような被害のリスクがあるのか確認しましょう。

洪水

洪水ハザードマップ

想定 ● 想定最大規模の降雨(2日間で約792ミリを想定)
※例えば、令和元年の台風19号では、横浜市で313mm(24時間)の雨が降りました。

→降雨により、川の水位が上昇し、堤防から水があふれた場合などに浸水する可能性のある区域や、堤防が壊れたことによる氾濫等により家屋が倒壊するおそれのある区域(家屋倒壊等氾濫想定区域)を示したマップ



内水

内水ハザードマップ

→降雨により、マンホールや雨水ますなどから水があふれた場合に浸水する可能性のある区域を示したマップ

自宅などの場所を洪水・内水ハザードマップで確認したらチェック



土砂災害

土砂災害ハザードマップ

→集中豪雨や台風に伴う豪雨により、崖崩れが発生した場合に被害が及ぶ可能性のある区域を示したマップ

自宅などの場所を土砂災害ハザードマップで確認したらチェック



(令和8年6月発行)

(令和6年3月発行)

各ハザードマップは以下の方法で入手できます

印刷物(紙媒体)



※無償提供

港北区役所1階正面入り口近く、または4階44番窓口

データ(ウェブ)

横浜市行政地図情報提供システム「わいわい防災マップ」
→住所を検索して確認できます。



横浜市ホームページで「防災の地図 横浜」と検索
→各ハザードマップをPDFで閲覧できます。

アプリ



横浜市避難ナビ

(詳細は12ページ参照)

3 避難情報・避難場所について理解しよう!

避難に関する情報は、区民の皆様にわかりやすくお伝えするため5段階の警戒レベルとともに発表されます。次の表を確認して、避難を開始するタイミングを決めておきましょう。

① 警戒レベルと避難情報等について

※警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングや対象地域は必ずしも一致し ません。

警戒レベル4で
避難対象区域の方は全員避難です。

警戒レベル	レベル 1	レベル 2	レベル 3	レベル 4	レベル 5
避難情報 等			高齢者等避難 (発令者:区役所)	避難指示 (発令者:区役所)	緊急安全確保 (発令者:区役所)
避難行動 等	災害への心構えを高めましょう	避難に備え、ハザードマップ等により、自らの避難行動を確認しましょう	避難対象区域に居住する高齢者等とその支援者は避難しましょう。また、高齢者等以外の人も避難の準備を開始し、最新の情報に留意しましょう。	避難対象区域に居住する人は全員、速やかに避難行動を開始しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、自宅の2階以上に避難する、崖から離れた部屋に避難するなど、適切な避難行動を心がけましょう。	何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況です。命の危険が迫っているため、直ちに身の安全を確保する最善の行動をとりましょう。
大雨に関する警戒レベル相当情報		レベル2 大雨注意報	レベル3 大雨警報	レベル4 大雨危険警報	レベル5 大雨特別警報
河川氾濫に関する警戒レベル相当情報	早期注意情報	レベル2 氾濫注意報	レベル3 氾濫警報	レベル4 氾濫危険警報	レベル5 氾濫特別警報
土砂災害に関する警戒レベル相当情報		レベル2 土砂災害注意報	レベル3 土砂災害警報	レベル4 土砂災害危険警報	レベル5 土砂災害特別警報

② 情報収集の方法 ～避難情報や避難場所情報を入手しよう～

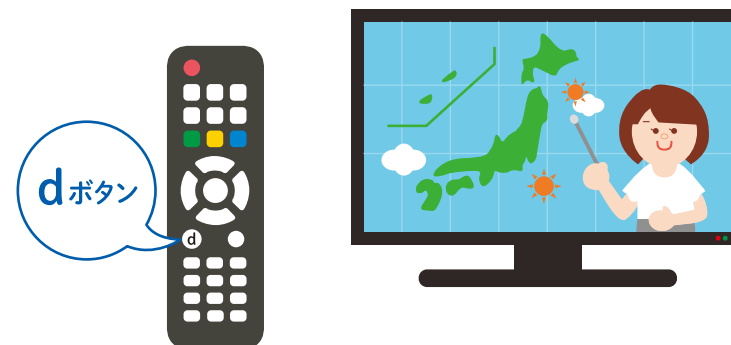
水害時は、行政等が発信する最新の情報を自分自身で常に収集することが、避難行動の第一歩です。港北区役所では水害に備えていただくために、様々な方法で情報発信をしています。

手段	発信者	登録必要の有無 (必要→○ 不要→×)
テレビのデータ放送(dボタン)	横浜市、区役所	×
横浜市防災情報Eメール	横浜市	○
横浜市ウェブページ	横浜市	×
港北区ウェブページ	区役所	×
横浜市水防災情報	横浜市	×
港北区 X(旧ツイッター)	区役所	○
横浜市避難ナビ	横浜市	○
緊急速報メール(エリアメール)	神奈川県、横浜市 中央省庁等	△ (詳しくは13～14ページ参照)
広報車	区役所	×

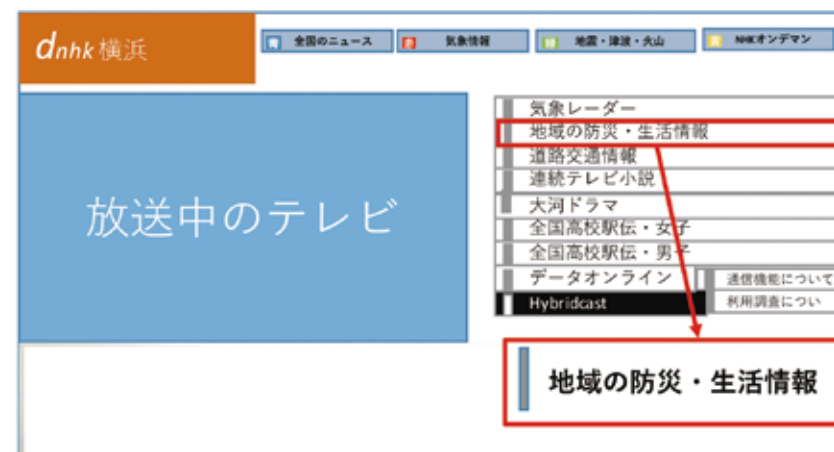
各手段の確認・登録方法

(1) テレビのデータ放送 (NHKの場合)

1 テレビのリモコンにある「dボタン」を押します。



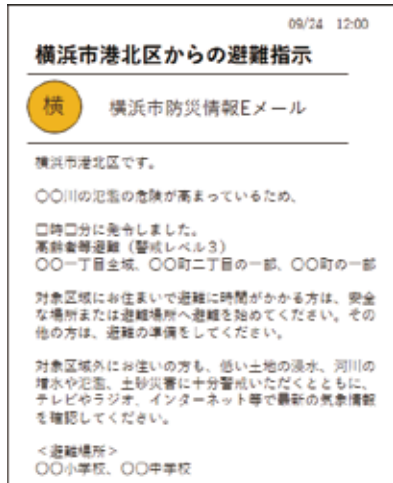
2 画面右にある「地域の防災・生活情報」をクリックします。



3 現在発令中の避難情報や開設中の避難場所、河川の水位情報等を確認できます。

(2) 横浜市防災情報Eメール

防災情報Eメールをご登録していただくと、気象警報や河川水位情報、避難情報等がメールで確認できます。
 ※受信する情報を選択することができます。



〈防災情報Eメールのサンプル〉

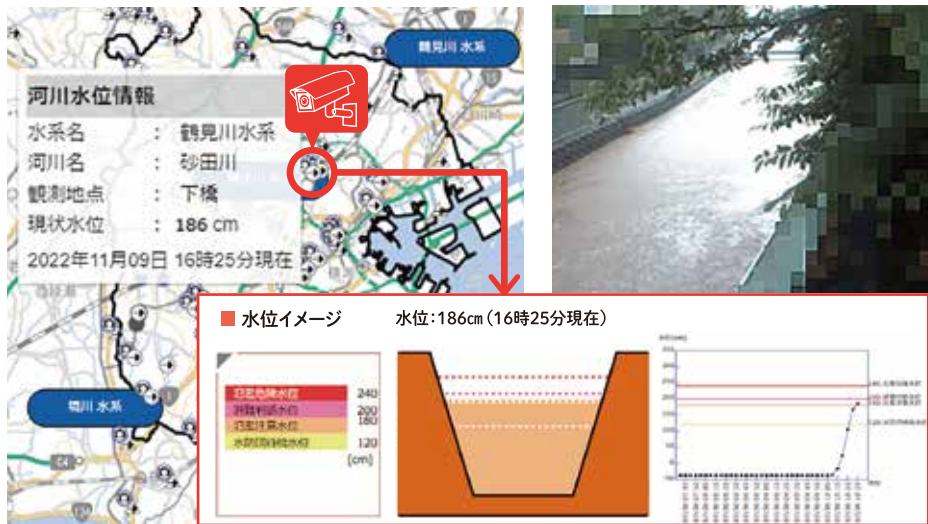
【登録方法】

登録方法は、「横浜市防災情報Eメール」で検索し、確認してください。

横浜市防災情報Eメール

(3) 横浜市水防災情報

市内外の水位観測点における水位情報や、河川監視カメラの画像を確認することができます。



(4) 横浜市避難ナビ

一人ひとりの避難行動を平時である「いま」から災害時である「いざ」まで一体的にサポートするアプリです。



平時は、ARによる浸水状況の疑似体験や、ハザードマップ・避難場所の確認、マイ・タイムラインの作成等ができます。災害時は、マイ・タイムラインと連動した避難情報のプッシュ通知、開設している避難場所へのルート案内機能等を利用することができます。



「防災学習」内にある「よこはま防災e-パーク」では、地震や風水害に関する基本的なことから、子どもや企業向けの内容まで、クイズや動画で防災について学べるようになっています。



安否登録の項目では、自身の安否の登録や、探している人の安否を調べることができます。また、災害用伝言板(web171)を使用することで、電話番号を用いて安否や伝言を登録・確認することができます。

【アプリのダウンロード】

iOS

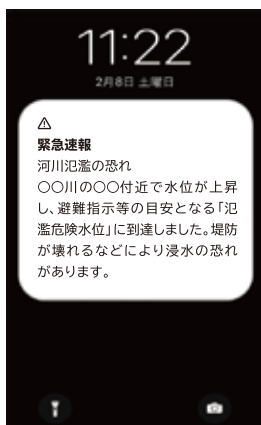
Android

(5) 緊急速報メール(エリアメール)

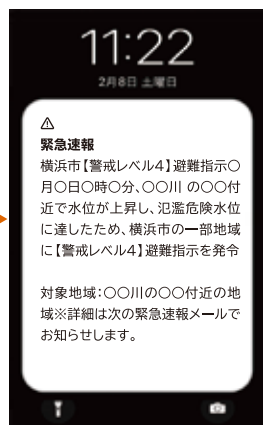
緊急速報メールは、携帯電話事業者が無料で提供するサービスで、避難指示等の緊急性の高い情報を配信します。

洪水の場合

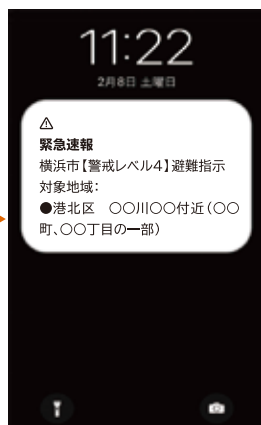
1通目
国土交通省からの配信



2通目
横浜市からの配信

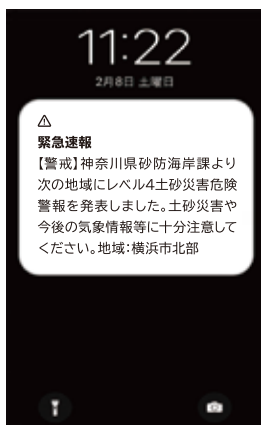


3通目
避難対象区域

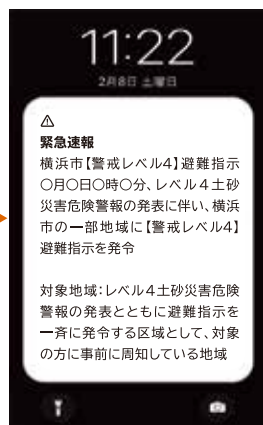


土砂災害の場合

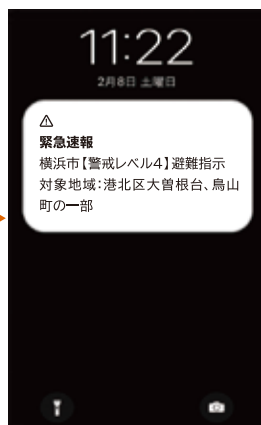
1通目
神奈川県からの配信



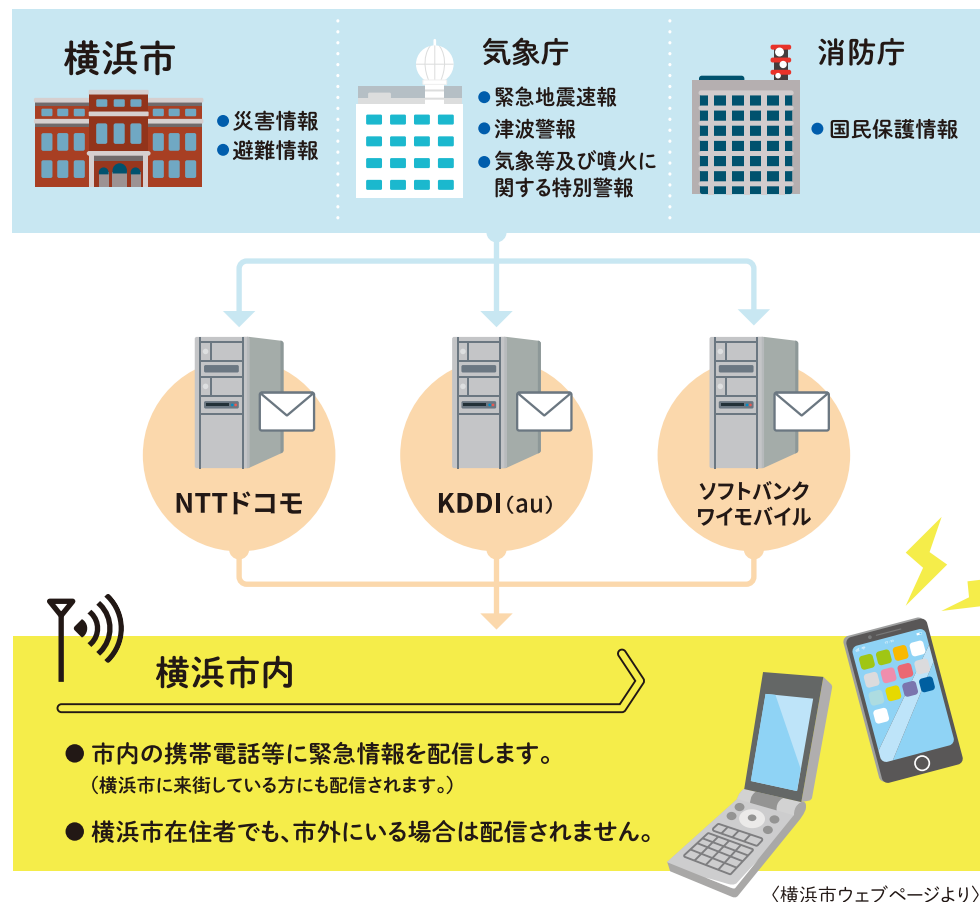
2通目
横浜市からの配信



3通目
避難対象区域



エリアメール配信の流れ



※ 配信の対象となる通信事業者は、NTTドコモ、KDDI (au)、ソフトバンク、ワイモバイル、楽天モバイルです。
 ※ 基本的に登録は必要ありませんが、携帯の機種によっては受信できない場合があります。
 詳しくは各通信事業者にお問い合わせください。



注意!! エリアメールは避難が必要ない人にも配信されます。

受信した際は、慌てず避難対象区域を確認し

避難の必要性を判断しましょう。

③ 大雨時の避難場所について

大雨時の避難場所は、指定緊急避難場所です。

指定緊急避難場所とは、大雨の被害から一時的に避難する場所で、避難情報の発令とともに開設されます。

指定緊急避難場所は、区内の地域防災拠点(詳細は16ページ参照)の中から、災害の種類ごとに指定されています。そのため、大雨時は、全ての地域防災拠点が避難場所として開設されるわけではありません!

指定 緊急避難 場所一覧	港北小学校(菊名2-15-1)	高田東小学校(高田東2-33-1)
	菊名小学校(菊名5-18-1)	城郷小学校(鳥山町814)
	城郷中学校(小机町325)	新羽小学校(新羽町1452-2)
	小机小学校(小机町1382-10)	矢上小学校(日吉3-23-1)
	篠原西小学校(篠原町1241-1)	日吉台小学校(日吉本町1-34-21)
	篠原小学校(篠原東3-27-1)	駒林小学校(日吉本町2-51-1)
	下田小学校(下田町4-10-1)	大豆戸小学校(大豆戸町759)
	新田小学校(新吉田町3226)	師岡小学校(師岡町986)
	高田中学校(高田町2439)	

(住所五十音順)



〈指定緊急避難場所看板〉

指定緊急避難場所には、看板を設置しています。避難場所として開設されたときは「開設中」、平時は「閉鎖中」と表示しています。

自主避難場所を開設する場合があります。

指定緊急避難場所のほかに、災害が発生し、または発生の恐れがある場合や、災害に備えて自主的に避難する場合の避難場所として、必要に応じて自主避難場所を開設します。

自主避難 場所一覧	大倉山記念館(大倉山2-10-1)	網島地区センター(網島西1-14-26)
	菊名地区センター(菊名6-18-10)	港北区民文化センター (網島東1-9-10新網島スクエア4・5階)
	篠原中学校(篠原町1342-3)	日吉地区センター(日吉本町1-11-13)
	篠原地区センター(篠原東2-15-27)	港北公会堂(大豆戸町26-1)

◎大雨時の避難場所の情報は区のウェブページ等で発信します。
最新の避難場所情報を確認するようにしましょう!

(住所五十音順)

参考

地域防災拠点 (指定避難所) とは

災害によって自宅に住めなくなった場合に避難生活をする場所で、横浜市区で震度5強以上の地震が観測された時に開設されます。指定緊急避難場所としての機能もあります。

港北区の地域防災拠点 (指定避難所)

港北区内にある小・中学校のうち、29か所が地域防災拠点になっています。

⚠️ 注意!! 在宅避難のススメ 避難場所は密集します!

避難場所には多くの避難者が集まるため、感染症拡大のおそれがあります。浸水の想定がない区域に住んでいる、想定される浸水深よりも高いところに住んでいるなど、自宅に留まることの危険がない場合には在宅避難を検討してください。また、避難場所への避難だけでなく、安全な場所にある親戚や知人の家、宿泊施設等への避難も検討しておきましょう。

在宅避難の備えは17ページに記載しています。



指定緊急避難場所への持ち物について

指定緊急避難場所では物資の提供はありません。小さい子どもがいる、高齢者がいる、ペットがいるなど、避難者によって必要なものは異なります。避難時の持ち出し品に不足がないよう、日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。

CHECK 非常用持ち出し品リスト(例)

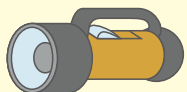
食料等



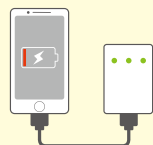
常備薬



懐中電灯



モバイルバッテリー



感染症対策物品



在宅避難の備え

浸水の想定がない区域に住んでいる場合や、想定される浸水深よりも高いところに住んでいる場合は、避難場所へ避難せず、在宅避難を検討してください。

大雨時は、電気設備の浸水や電柱・電線の損傷による停電の発生、停電に伴う断水の発生も考えられます。食料や日用品をはじめ、日頃から在宅避難の備えをしておきましょう。

CHECK 停電への備えリスト(例)

懐中電灯

カセットコンロ

ランタン

カセットボンベ

電池



CHECK 断水への備えリスト(例)

水

トイレパック



ペットと一緒に避難する場合

ペットと一緒に避難する場合、いくつか注意が必要です。避難場所に到着してから焦らないよう、事前に考えておきましょう。

ペットの飼育場所

飼い主が避難生活を送る場所と同じ場所でペットの飼育管理を行うことはできません。また、風雨の規模によっては、ペットの飼育スペースに風雨が当たることもあります。

避難場所がペットにとって最良の場所とはならないことも考えられるので、ペット同行避難だけでなく、事前に親戚、知人、動物病院などの一時預け先や、ペットホテルの利用を検討しておきましょう。

避難場所での飼育ルール

避難者の中には、動物が苦手な人や動物アレルギーのある人など様々な人がいるので、日頃からしつけを行い、飼い主同士が協力して避難生活を送るようにしましょう。

ペット用の物品

避難場所にはペットに関する備蓄品はありません。

飼育用のケージやフード、ペットシートなど必要な物品を日頃から準備しておきましょう。

CHECK ペット用持ち出し品リスト(例)

- フード、水、薬・・・最低5日分以上(できれば7日分以上)
- ペット用品・・・ペットシート等のトイレ用品、新聞紙、リード等
- 飼育手帳・・・飼い主の連絡先、ワクチン接種状況、服用中の薬等



大雨、地震など災害時のペットに関する情報は、「災害時のペット対策」に記載されています。

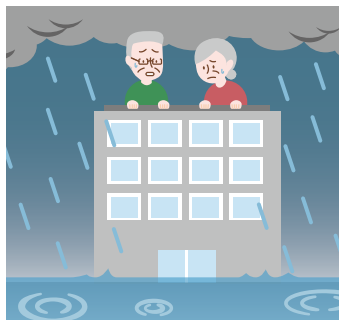


4 避難の際の注意点

無理をせず安全な避難を心がけましょう

夜間や大雨の中での移動など避難場所まで行くことがかえって危険と思われる場合は、近くのより安全と思われる建物（最上階が浸水しない建物や川沿いでない建物など）に移動しましょう。

また、土砂災害の危険がある場合は崖から離れた部屋に移動するのも避難行動の一つです。



安全な経路で避難しましょう

河川沿いや崖沿いの道、アンダーパス*は避けて避難しましょう。また、避難先までの経路を複数検討し、より安全な経路で避難を行きましょう。

大雨により足元が非常に滑りやすくなっている場合があります。転倒・転落しないよう十分に注意しましょう。

※主要幹線道路や鉄道などと立体的に交差する道路で、周囲と比べて道路の高さが局部的に低くなっている部分のこと



隣近所で声を掛け合いましょう

高齢者、子ども、障害のある人などは避難に時間を要するため、地域の皆さんで協力し安全に避難しましょう。



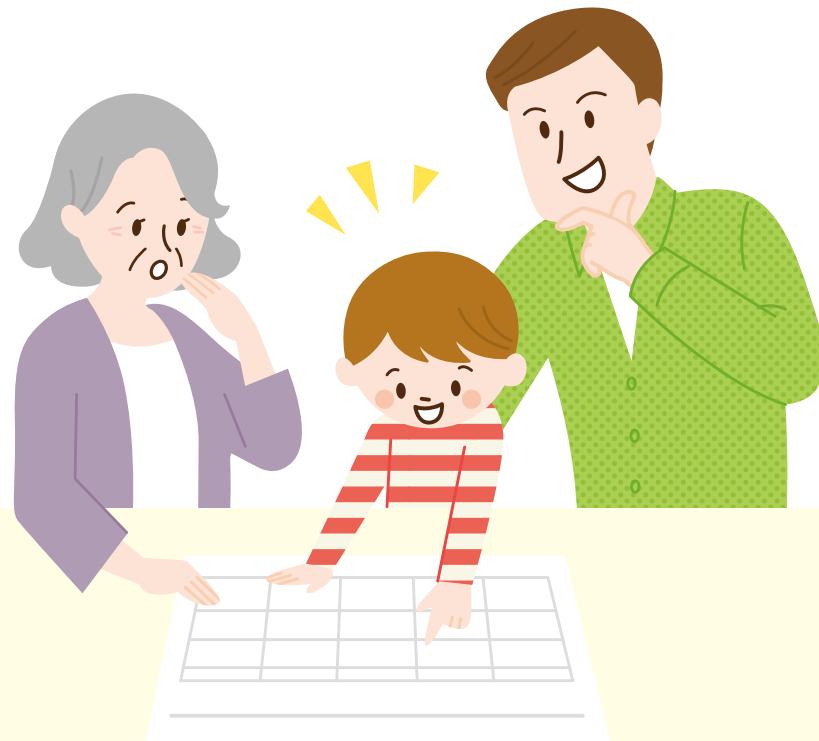
避難に関して分からないことがある場合は、**港北区役所総務課**にご相談ください。

4

マイ・タイムラインを 作成しよう！

マイ・タイムラインとは・・・

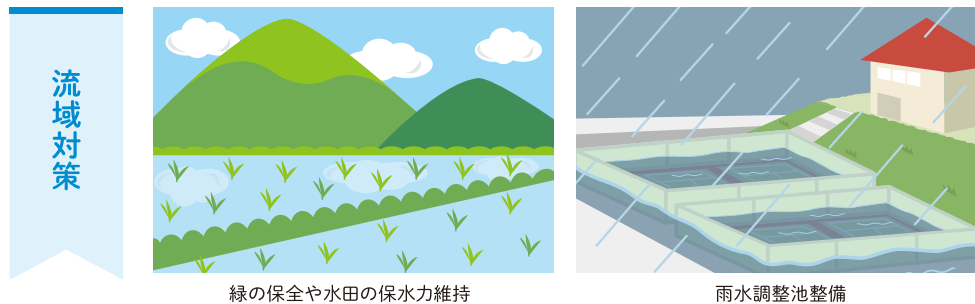
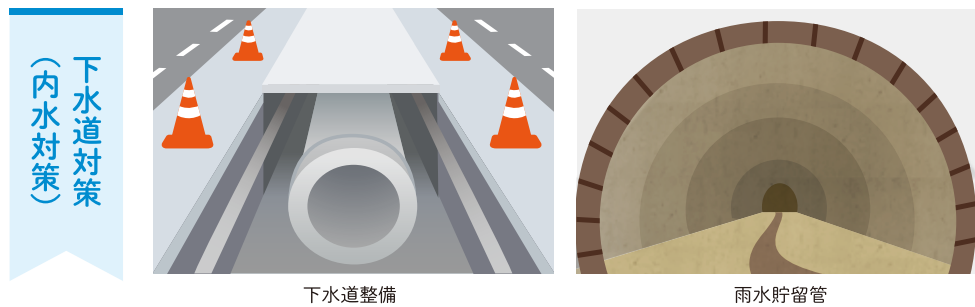
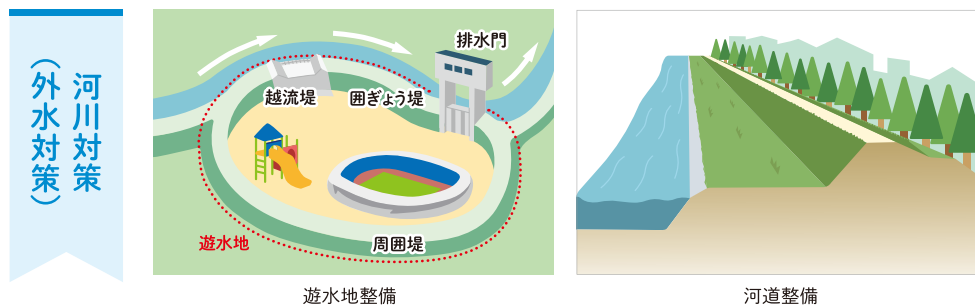
台風や大雨などこれから起こる可能性のある災害に対して、家族構成や生活環境に合わせて、「いつ何をするのか」を時系列でまとめたものです。



① 鶴見川流域総合治水対策について

総合治水は、河川対策と下水道対策に加え、流域全体で緑を守ったり、雨水調整池をつくるなどの流域対策も同時に進める治水の方式です。

国や流域自治体が連携して取り組んだ総合治水対策により、鶴見川流域の安全と安心が守られています。



② 鶴見川多目的遊水地について

鶴見川多目的遊水地は、川の水位が上昇した際に水を貯留することで、河川の水があふれるのを防ぎます。

総貯水量は390万 m^3 (東京ドーム約3杯分)で、平成15年の運用開始以来、令和8年5月末までに計24回の洪水調整をしています。



洪水を貯留し、人々を洪水から守ります



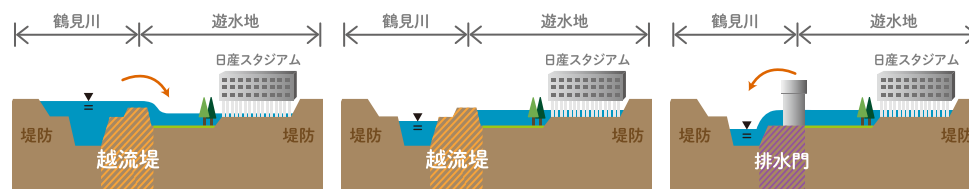
平常時：平成18年(2006年)10月



出水時：平成26年(2014年)10月

洪水調整の仕組み

- 台風等で川の水位が上がると、一段低い越流堤から遊水地に水が流れ込みます。
- 遊水地に一時的に貯留します。
- 川の水位が下がった後は排水門を使って貯留した水を少しずつ川へ戻していきます。



③ 鶴見川流域総合治水対策の効果

1. 鶴見川多目的遊水地への流入実績

令和元年台風第19号の際は、鶴見川の水位が上昇して約94万^mの洪水を一時的に貯留し、運用開始以降3番目に多い貯留量を記録しました。また、台風が直撃した翌日に、ラグビーワールドカップ2019™の試合を行えたことは大きな話題となりました。

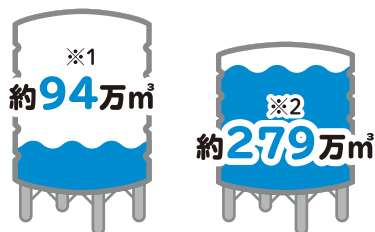
■ 鶴見川多目的遊水地への流入実績

No.	年月日	出水名	貯留量	No.	年月日	出水名	貯留量
1	平成15年8月15日	前線による豪雨	約7,000 ^m	13	平成25年10月16日	台風26号	約328,000 ^m
2	平成16年10月9日	台風22号	約1,250,000 ^m	14	平成26年6月6日	低気圧による豪雨	約22,000 ^m
3	平成16年10月20日	台風23号	約80,000 ^m	15	平成26年10月6日	台風18号	約1,536,000 ^m
4	平成17年9月4日	前線による豪雨	約50,000 ^m	16	平成27年12月11日	低気圧による豪雨	約13,000 ^m
5	平成20年5月20日	前線による豪雨	約9,000 ^m	17	平成28年8月22日	台風9号	約422,000 ^m
6	平成20年8月30日	前線による豪雨	約50,000 ^m	18	平成29年10月23日	台風21号	約102,000 ^m
7	平成21年10月8日	台風18号	約64,000 ^m	19	平成30年3月9日	低気圧による豪雨	約907,000 ^m
8	平成22年12月3日	前線による豪雨	約62,000 ^m	20	令和元年9月9日	台風15号	約64,000 ^m
9	平成23年8月26日	前線による豪雨	約54,000 ^m	21	令和元年10月12日	台風19号	約936,000 ^m
10	平成24年5月3日	前線による豪雨	約18,000 ^m	22	令和3年9月18日	台風14号	約189,000 ^m
11	平成25年4月6日	低気圧による豪雨	約922,000 ^m	23	令和5年6月3日	台風2号に伴う降雨	約35,000 ^m
12	平成25年9月15日	台風18号	約50,000 ^m	24	令和6年8月30日	台風10号に伴う降雨	約427,000 ^m

出典：国土交通省関東地方整備局京浜河川事務所記者発表資料「鶴見川多目的遊水地で台風第10号の影響に伴う降雨による洪水を貯留」

2. 流域対策の効果

鶴見川流域で整備された約5,000基の雨水調整池や中・上流部における緑地保土が大きな支援となり、流域全体で下流の水害を防ぐことができました。



※1: 鶴見川多目的遊水地による貯留(施設容量 約390万^m) ※2: 流域対策による貯留(施設容量 約321万^m)

〈源流付近の谷戸〉



〈雨水調整池〉



④ 港北区内での取組 まるごとまちごとハザードマップ

まるごとまちごとハザードマップは、水害に関する情報を“まちなか”に表示し、自然に目に入るようにすることで、日常的に防災への意識を高めていただくことを目的としたものです。

区内の洪水浸水想定区域内の電柱に、河川が氾濫した場合に考えられる最大の浸水深が表示されています。

令和4年度から順次設置を行っています。



電柱に巻いてある青いテープは、その地点の浸水の深さを表しているよ!



設置例

鶴見川流域の治水・防災・自然について学習しよう!

水族館などもあり、年齢を問わず楽しむことができます。



地域防災施設鶴見川流域センター(入館料無料)

住所: 横浜市港北区小机町2081 TEL: 045-475-1998 FAX: 045-475-1999 開館日: 10:00~17:00(火曜日休館)